

## 世界の外貨準備から見えること

世界の外貨準備における通貨構成のデータが IMF から発表された。23 年第四四半期末時点だ。そのデータのポイントを列挙するが、最初に今回のデータから読み取れる重要な点を述べる。

ドルと人民元の割合の減少傾向が続いているが、その受け皿としては多くの場合ユーロ、そして円やポンドがその役割を担う。しかし今回のデータからはそれがオーストラリアドル、カナダドル、その他通貨にシフトしていることだ。

従来はドル一極体制が終わる場合、人民元が一部の役割を担うドル人民元の二極通貨体制やユーロ、円、ポンドも含めた多極通貨体制への移行が言われてきたが、現実はもっと広範な多通貨体制あるいは分極通貨体制とも言うべきシステムに向かう兆候も出てきた。金価格の最近の高騰もこうした文脈の中で捉えることができる。

1. ドルの割合（58.41%）は史上最低水準だ。2020 年第四四半期に 60% を切って以降若干の増減を繰り返してきたが、長期低減傾向は変わらない。
2. 人民元の割合（2.29%）は 22 年第一四半期以降減少傾向が続いている。人民元のデータは 16 年第四四半期から公表されたが以降判で押したように每期増加していた。だが 22 年第一四半期以降は每期減少を繰り返している。この点から伺えるのは中国が人民元の国際化に重点を置いた政策は変更されたということだ。国際化よりも人民元レート安定や資本流出入の管理強化を優先することだ。
3. ユーロの割合（19.98%）は安定している。ロシアのウクライナ侵攻直後は若干減少したもののその後は 20% 前後で推移している。この点で見るとウクライナ戦争の影響はほとんどないと言える。
4. 円の割合（5.70%）は 2018 年第四四半期以降 5% 台に増加し、20 年には一時 6% 台に上げたこともあったが、基本的に 5% 台で安定的に推移している。状況の変化に関わらず一定した円需要があることが伺われる。
5. ポンドの割合（4.84%）は 5% 弱の水準で安定している。BREXIT で減少が見込まれたが、地政学リスクの拡大からの需要で相殺されている可能性がある。
6. カナダドルの割合（2.58%）は人民元を上回り、史上最高水準になった。オーストラリアドルの割合（2.11%）もこれまでで最も高い。

英国連邦(コモンウェルス)の一員であるカナダドルとオーストラリアドルを合わせると盟主の通貨に肉薄する。

7. その他通貨の割合（3.87%）はこれまでで最高水準を記録した。C\$ と A\$ を加えると円を抜きユーロの次を占めることになる。

次回の更新は 5 月 1 日になります。